

○中小・小規模事業者感染予防対策等緊急支援事業を活用した優良事例 〈釧路和商協同組合（釧路市）〉

■釧路和商市場の概要

釧路市は北海道東部に位置し、日本有数の水揚げ量を誇る「釧路港」を有している。

釧路港で水揚げされた新鮮な海の幸が並ぶ「釧路和商市場」は、昭和29年(1954年)、魚介類を売り歩いていた行商人が集まり、釧路和商協同組合を設立したことが始まり。

釧路和商市場は、北海道三大市場の一つと称されており、「市民の台所」として釧路市民に親しまれるとともに、名物の海鮮丼「勝手丼」が人気を集め、一年を通して国内外からの多くの観光客で賑わっている。



〔釧路和商市場〕

■新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まった2月以降来客が減少した。

特に、観光客は外国人を中心に急激に減少し、ほぼゼロにまで落ち込んだ。

市場の利用客は、観光客と地元客が4：6の割合であったため、観光客の減少による影響は大きく、加えて、外出自粛の影響により、地元客も減少したため、各店舗は厳しい経営状況に陥った。

来客が途絶えてしまったため、インターネットでの販売に力を入れた。

以前からオンラインショップはあったが、和商市場への支援のため、遠方のお得意さん等から多くの注文があった。

通常時はイクラやタラコ等の魚卵の売上が大きいですが、外出自粛期間中に最も売れた商品はラーメンだった。安価で求めやすいことや美味しく消費、普段利用していない顧客の利用があったことが影響していると考えられる。

オンラインショップが想定以上の売上となった。

■感染予防対策

組合でアルコール消毒液を購入し、出入口へ設置したほか、共用となっている来店者の飲食用テーブルは、利用後に各組合員が協力し、消毒作業を行っている。

出入口の扉を開放しての換気はもちろん、新北海道スタイルのPR掲示のほか、来客へのマスク着用と手指消毒のお願いをモニターや館内放送で周知している。

マスクが不足した時期には、マスクを着用せずに入店した客に、各組合員から集めたマスクを配布して対応した。



〔消毒液設置・感染対策の呼びかけ〕

■補助金の活用

道の中小・小規模事業者感染予防対策等緊急支援事業を活用し、販売促進用のチラシを発行した。観光客の来客が回復するまでには時間がかかることが予想されたため、地元客に戻って来てもらえるよう、月に2回特売チラシを折り込むこととし、その経費に充てた。

地元の消費者をターゲットとするため、特産品だけではなく、普段使いができるような食材も特売の対象とした。

また、チラシ上で感染予防対策の取組を紹介し、安全性をPRすることで来客の回復に繋げる狙いがあった。



〔販促チラシ〕

道の補助金以外にも、国や市の制度等、活用できる支援策などの情報は全て各組合員に提供している。

市のプレミアム付商品券事業では、参加登録したほか、券の販売店にもなっている。

発売開始日には多くの人が商品券の購入に訪れ、早速、各店舗での利用があった。落ちこんだ消費の回復に一定の効果があるものと期待している。

■感染予防による効果

道の緊急事態宣言解除後から少しずつ来客は増え、道外客も少しずつ見受けられるようになった。

ただし、例年並みには程遠く、団体客やクルーズ船の観光客、外国人観光客等が戻る見通しは立っていない。

■現状と今後の展開

今後もマスクの着用やアルコール消毒等、基本的な感染予防対策を徹底する。

予防は大切だが、物が売れなければ店が続けられないため、集客は重要な課題。

今後は、密を作らない対策を行った上での販促イベントを企画する。

また、人を集める以外の販促事業として、グッズ販売を行っていきたい。オリジナルデザインのエコバックを作成し販売したところ、想定以上の売行きがあり、追加発注をしたところ。

グッズ制作は密を作らず消費を生むことから、有効なツールであることなど新たな発見もあった。

今後も感染予防を行いつつ、様々な工夫がなされた事業展開が期待される。



〔オリジナルエコバック〕

取材先 ■釧路和商協同組合
釧路市黒金町 13 丁目 25 番地 釧路和商市場内
TEL : 0154-22-3226